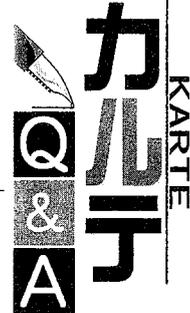


免許更新を機に眼科を受診すると、左目の黄斑前膜と診断されました。受診すべきサインや失明の可能性、今後注意すべきことなど、アドバイスをお願いします。

(67歳、女性)

黄斑前膜



松原令医師

「表がゆがんで見える」発症のサイン

前(瞳孔側)で発生することが大半です。

黄斑前膜の主な原因は加齢ですが、網膜裂孔や網膜剝離、糖尿病網膜症などの後遺症として現れることがあります。また、打撲などの外傷後にも発生することがあります。黄斑前膜が厚くなると、見

黄斑前膜は、光を感じる組織である網膜の上に薄い膜が発生する病気です。網膜のうち、視力に直結し、ものを詳細に見るときに使う黄斑部の

え方に影響が出ます。主な症状は、物がゆがんで見える、読書が困難になる、視力が低下する「など」です。物を見るときに視界の中心部を使用するため、中心部の視力に影響があると生活に支障があることも少なくありません。初期段階では自覚症状がほとんどなく、黄斑前膜が発見

がります。失明のリスクは低いですが、放置すると、視力の低下が進んだり、治療しても視力があまり回復しなかったりする可能性があります。黄斑前膜の治療法としては、主に手術による除去が一般的です。この手術は「硝子体手術」と呼ばれ、眼球内

された場合は定期的な眼科受診が非常に重要です。特に「文字が波打って見える」「直線が曲がって見える」といった症状が現れた場合は、速やかに受診することをお勧めします。パソコンを使う方は「エクスセルの表がゆがんで見える」などが進行の発見につな

部の大部分を満たす硝子体に特殊な器具を挿入し、網膜に附着している前膜を取り除きます。手術は比較的安全で、視力の改善が期待できます。経過観察や治療の場合、定期的な受診によって状態を確認することが大切です。黄斑前膜は、早期発見と適

切な治療により、日常生活に大きな影響を与えることなく管理することが可能です。定期的な眼科受診を欠かさず、健康な視力を維持しましょう。

(兵庫県眼科医会、松原令|| 神戸市東灘区、松原眼科クリニック)
◇第1、3、4日曜に掲載
します。